小矢部市埋蔵文化財調査報告書第58冊

平成17年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

２００５．３

小矢部市教育委員会

例　　言

1　本書は、2005(H17)年度小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。

2　調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし桜町遺跡の試掘調査は㈱エイ・テックに委託した。担当は次のとおりである。

調査事務　　高木場万里（文化課主任）

現地調査　　日の宮・道林寺遺跡、石動条里遺跡、桜町遺跡（立会調査）　高木場 万里

桜町遺跡（試掘調査）　堀井　泰樹

(㈱エイ・テック埋蔵文化財調査室主任)

3　現地調査の作業員は、(社)小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。

4　本書の編集は高木場が担当した。執筆は桜町遺跡(試掘調査)については堀井氏に依頼し、その他は高木場が担当した。

5　出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要 …… 1

市内遺跡発掘調査等事業一覧 …… 2

市内遺跡発掘調査等事業位置図 …… 3

日の宮・道林寺遺跡 …… 4

石動条里遺跡 …… 5

桜町遺跡 …… 6

事　業　の　概　要

2005（H17）年度小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は試掘調査3件（立会調査含む）、分布調査1件、現地確認1件である。すべて開発行為に伴う事前調査である。開発行為の原因別にみると、個人住宅の建設に伴うもの2件、遺跡活用施設等の建設に伴うもの1件、土地区画整理事業に伴うもの１件、台風による倒木の撤去作業に伴うもの1件である。原因となった事業者別にみると、個人3件、公社1件、市１件である。これ以外に事業者、規模の大小を問わず、事前に開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するか否かの問い合わせが10数件あった。

昨年の11件に比べると、試掘調査件数は大幅な減少であるが、遺跡活用施設の建設に伴う桜町遺跡の調査が対象面積27，853㎡、掘削面積500㎡であることから、面積的にはさほど変わらない。

試掘調査を実施した3件については、改めて遺跡ごとに概要を記述することとし、立会調査、分布調査、現地確認を実施したものについて簡単に概要を述べる。

立会調査　立会調査は、遺跡活用施設等の建設に伴うもので、開発用地内の畦畔ブロックの撤去等に伴うものである。試掘調査の結果を踏まえ標高25m以上の部分について工事に立ち会った。掘削は耕作土の範囲内であったので、遺構に影響はなかった。遺物は土師器、須恵器を採集した。

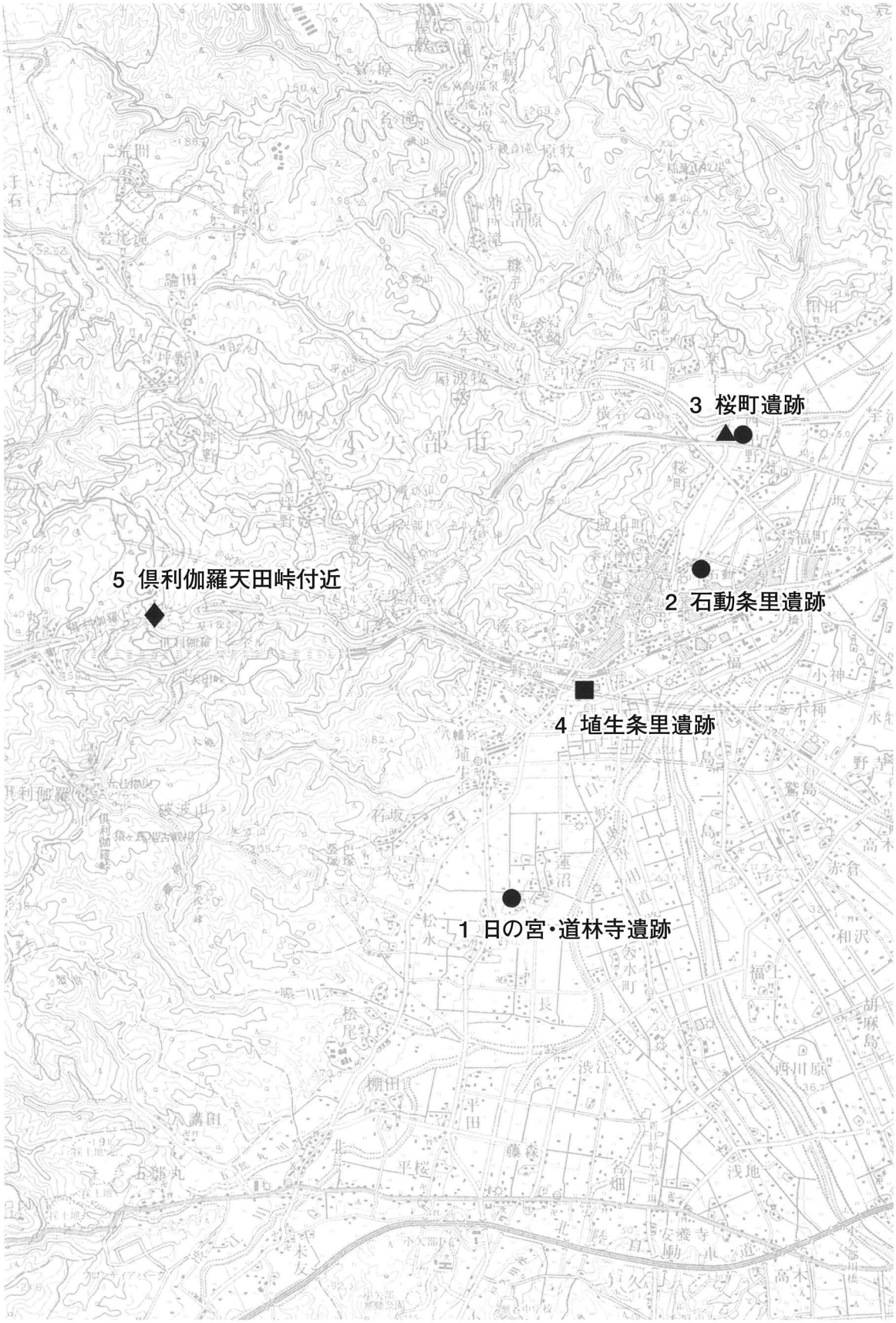
分布調査　分布調査は、市街地南方の綾子地内において計画されている土地区画整理事業に伴うものである。事業対象面積155，300㎡と広範囲であり、またその一部が埴生条里遺跡にかかることから事前に分布調査を実施し、遺跡の保護措置をはかることとした。調査の結果、土師器、珠洲を採集し、また条里という遺跡の性格上、分布調査だけでは詳細を把握できないため、さらに試掘調査が必要であるとの結論を得た。

現地確認　現地確認は、石川県との県境の倶利伽羅天田峠付近において、台風による倒木の撤去作業が実施され、近隣に山城の存在が指摘されていたことから現地確認をしたものである。確認の結果、堀状に落ち込んだ地形を確認したが、埋蔵文化財包蔵地として登録するにはさらに検討を要することから、作業範囲をこれ以上広げないよう依頼するにとどめた。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期　　間	調査結果	調査原因
1	日の宮・ 道林寺 遺　跡	蓮沼 141-2	143㎡ (8.25㎡)	試掘調査	2005.6.6 ～6.7	遺構確認されず。 土師質土器出土。	個人住宅建設
2	石動条里 遺　跡	畠中町 147-2	263.44㎡ (9㎡)	試掘調査	2005.9.22 ～9.26	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
3	桜町遺跡	桜町字産田 1540-1 ほか	27,853㎡ (500㎡)	試掘調査 立会調査	2005.11.10 ～2006.3.20 2006.3.27 ～3.31	柱穴、溝確認。 土師器、須恵器、 珠洲、 近世陶磁器出土。	遺跡活用施設 建設
4	埴生条里 遺　跡	綾子字居島 5051 ほか	155,300㎡	分布調査	2005.12.1	土師器、珠洲採集。	土地区画整理 事業
5	倶利伽羅 天田峠付近 (城跡か?)	安楽寺地内		現地確認	2005.12.1	堀跡か?	台風による 倒木撤去

市内遺跡発掘調査等事業位置図



●試掘調査　▲立会調査　■分布調査　◆現地調査　(1：50,000)

日の宮・道林寺遺跡

図１　調査位置図
（1：5,000）

調査の概要

日の宮・道林寺遺跡は渋江川左岸の標高35m～50mの段丘上に立地する。今回の調査は個人住宅の建設に伴うもので、遺跡範囲の中央北よりに位置する。このあたりは戦国時代に蓮沼城がおかれ、城下町として繁栄したところである。

現地調査は2005（H17）年6月6日～7日の2日間である。耕作中の畑をさけて1．5m×5．5mの試掘トレンチを1本設定した。人力により層位ごとに掘削、精査を繰り返し、遺構・遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は1mである。基本層位はⅠ層：耕作土（畑）、Ⅱ層：旧耕作土（水田）、Ⅲ層：極暗褐色シルト、Ⅳ層：明黄褐色粘質ローム（地山）である。遺構は確認できなかった。遺物は、Ⅱ層から近現代の陶磁器類とともに土師質土器片が1点出土した。

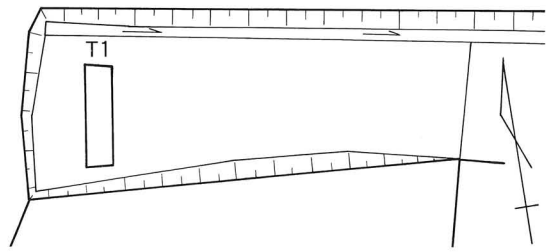


図２　調査区（1：400）

調査状況（南から）

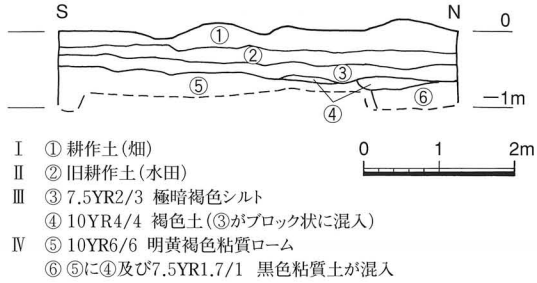


図３　Ｔ１断面

石動条里遺跡

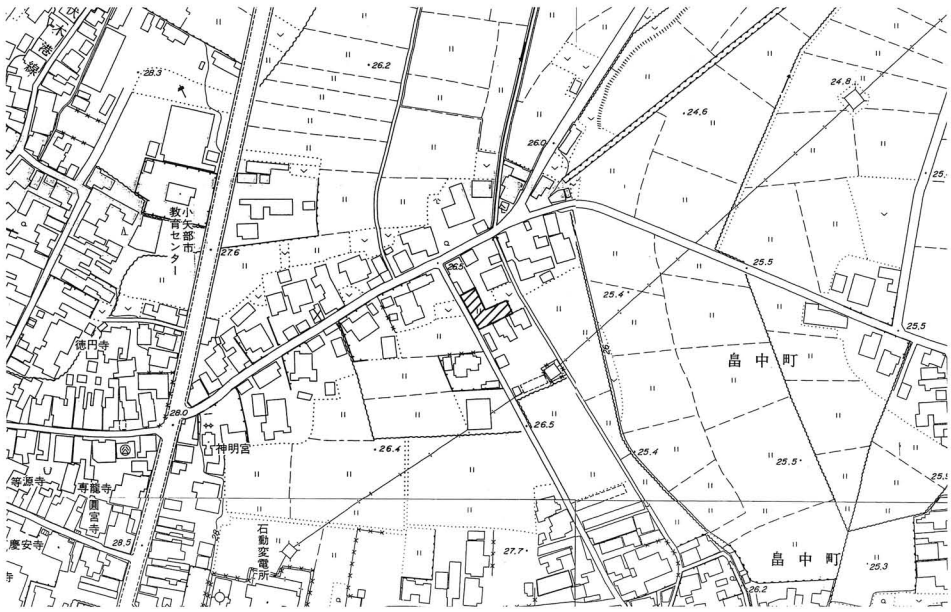


図４　調査位置図
（1：5,000）

調査の概要

石動条里遺跡は、小矢部川左岸の市街地北西に広がる。中世の地割が残る地域とされ、また「和名類従抄」越中国砺波郡十二郷のなかの八田郷をこの付近に比定する説もあるが、遺跡の半分は市街地化しており、住宅が密集している。

調査は個人住宅の建設に伴うもので、遺跡範囲の中央南よりに位置する。現地調査は2005（H17）年9月22日～26日までの2日間である。調査区内に1m×3mのトレンチを3本設定し、人力により掘削した。最終的な掘削深度は0．8mである。層位ごとに掘削、精査を繰り返したが、遺構及び遺物とも確認できなかった。

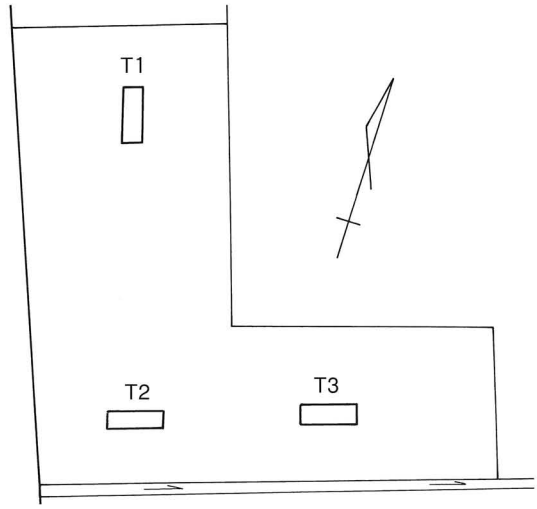
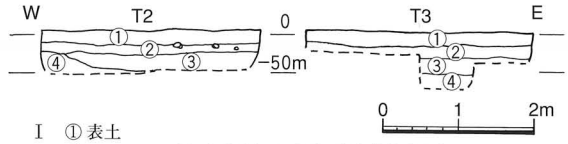


図５　調査区（1：400）

調査状況（北西から）



Ⅰ　①表土
Ⅱ　②10YR3/4 暗褐色土（小石、木片、炭水化物含む）
Ⅲ　③10YR4/2 灰黄褐色土（やや粘質　鉄分の沈着多い）
Ⅳ　④2.5YR3/2 黒褐色粘質ローム（炭水化物含む）

図６　Ｔ２・Ｔ３断面

桜　町　遺　跡

図7　調査位置図
(1：5,000)

調査の概要　桜町遺跡は市街地の北方、小矢部川と子撫川の合流部付近に所在し、子撫川右岸の自然堤防上に立地する。今回の調査は桜町遺跡周辺整備事業に伴う試掘調査である。調査地は、昭和59年に実施した国道8号小矢部バイパス建設に先立つ発掘調査地の北側に隣接し、東西約250m、南北約120mの範囲を対象とした。現地調査は平成17年11月14日から平成18年3月20日まで実施し、試掘トレンチは幅1m、長さ10m～40mとし、20ヶ所に設定した。

層　　位　調査地の基本層位はⅠ現代の耕作土、Ⅱ旧耕作土、Ⅲ褐灰色粘質土（古代の土器片を含む）、Ⅳ褐灰色粘質土（古代の土器片を含む）、Ⅴ黒褐色土（黄灰色土が多量に混入する）、Ⅵ暗青灰色シルト、Ⅶ黒褐色土、Ⅷ灰白色シルトである。遺構が検出されたのはⅢ層・Ⅳ層・Ⅴ層の3面である。Ⅴ層は古代の遺構検出面（第3面）と捉えられるが、層厚が薄いため、今回の試掘調査ではⅥ層を遺構検出面とし、Ⅲ層からⅤ層については、トレンチの壁面にて遺構の有無を判断した。古代の遺物包含層であるⅣ層は、調査地の西側ほど遺物量が増加するが、これは昭和59年の調査で検出された古代の掘立柱建物跡群の影響を受けたものとみられる※。Ⅲ層も古代の遺物包含層であるが、遺物量は少ない。Ⅲ層とⅣ層との間には、わずかではあるが遺構が検出され、Ⅳ層上面も古代の遺構検出面（第2面）と捉えられる。Ⅲ層上面は中世以降の遺構検出面（第1面）である。各遺構検出面の深さは、T04②付近で第1面15㎝、第2面25㎝、第3面35㎝、T08付近で第1面25㎝、第2面50㎝、第3面60㎝である。

※久々忠義・塚田一成 2003『桜町遺跡発掘調査報告書 弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ』

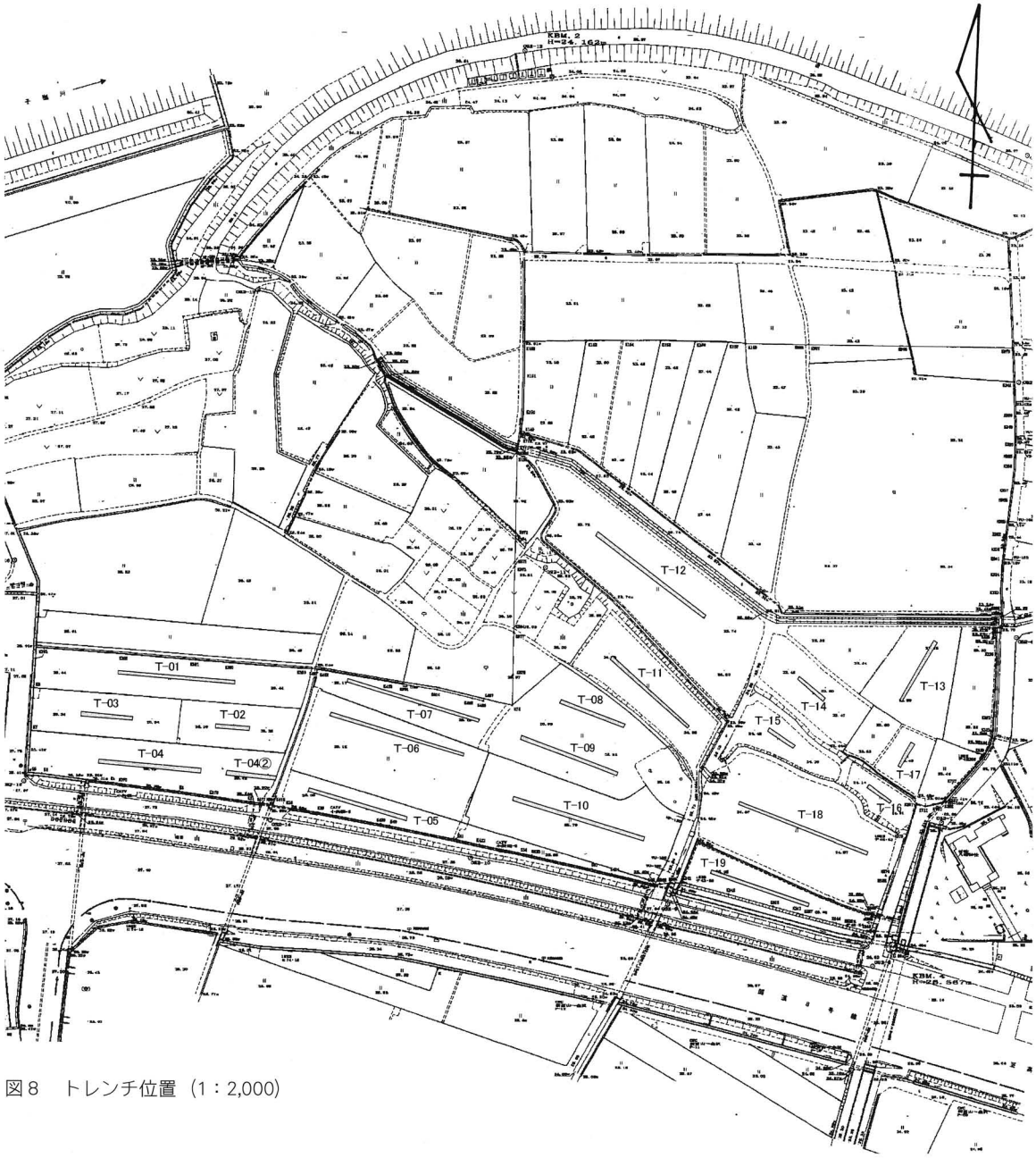


図8　トレンチ位置（1：2,000）

遺　　構　第3面で検出された古代の遺構は、土坑・ピット37基、溝11条である。これらは調査地の西側T01～T05付近に集中する傾向を示し、前述の掘立柱建物跡群を中心とした集落の一部を構成するものとみられる。同集落はT08で検出された溝を境に途切れ、調査地の北東部は子撫川右岸の低地へと変化する。そのためT11～T19では、自然流路に近い溝や落ち込みを除き、ピット1基が検出されているだけである。

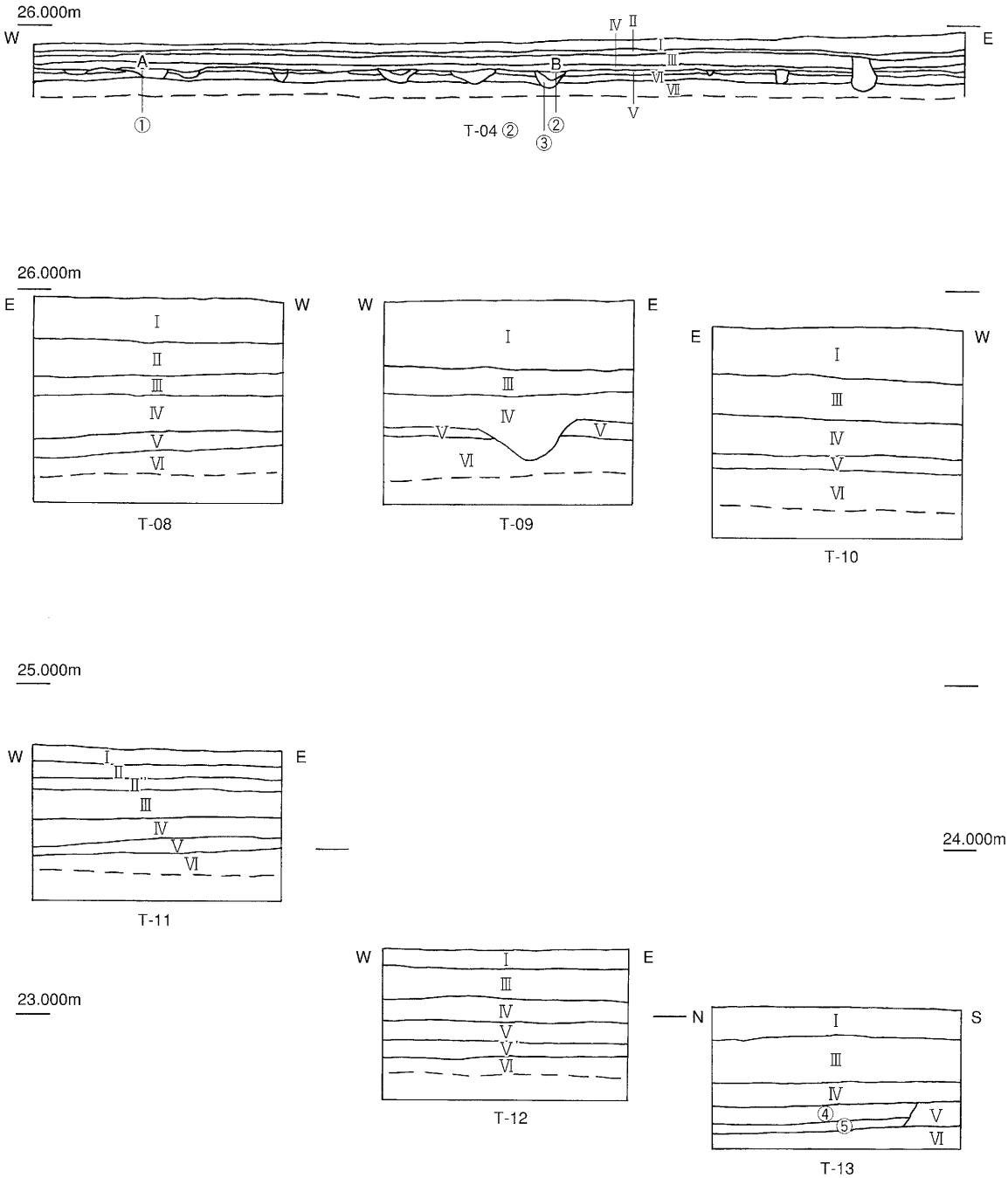
調査地の南側隣接地では、昭和59年及び平成5年に実施された発掘調査において、古代の道路状遺構が検出されている※。T04②の北壁断面にみられる溝状の掘り込みA・Bは、この道路状遺構の側溝の延長線上に位置し、心々距離は6mである。Aは幅90㎝、深さ15㎝、Bは幅50㎝、深さ25㎝を測る。

現時点では道路状遺構の可能性の指摘に留めておきたい。

この他、第2面ではピット2基、第1面ではピット3基が検出されている。

※前掲書及び 伊藤隆三 1994『平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』

遺　　物　弥生土器、土師器の坏・甕・牛角状把手、須恵器の坏・碗・蓋・短頸壺・瓶・甕、中近世の陶器が少量出土している。



Ⅰ　現代の耕作土
Ⅱ　旧耕作土
Ⅱ' Ⅲ層が混入する
Ⅲ　10YR4/1 褐灰色粘質土
Ⅳ　10YR4/1 褐灰色粘質土
Ⅴ　10YR3/2 黒褐色土
Ⅴ' Ⅵ層が混入する
Ⅵ　5B3/1 暗青灰色シルト
Ⅶ　10YR3/1 黒褐色土
Ⅷ　2.5Y8/1 灰白色シルト
①　N4/ 灰色土
②　2.5Y4/1 黄灰色土
③　5YR4/1 褐灰色土
④　細砂と粗砂
⑤　細砂とシルト

図9　トレンチ断面（1：40、T04 ②のみ1：100）

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいせいじゅうしちねんどおやべしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	平成17年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第58冊
編著者名	高木場　万里　　堀井　泰樹
編集機関	小矢部市教育委員会
所在地	〒932-8611　富山県小矢部市本町1番1号　TEL　0766-67-1760
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査 面積㎡	調査原因
ひのみやどうりんじ 日の宮・道林寺遺跡	おやべし 小矢部市 はすぬま 蓮沼141-2	16209 057	36°39′08″	136°51′25″	20050606～ 20050607	143	個人住宅 建設
いするぎじょうり 石動条里遺跡	おやべし 小矢部市 はたけなかまち 畠中町147-2	16209 182	36°40′34″	136°52′44″	20050922～ 20050926	263.44	個人住宅 建設
さくらまち 桜町遺跡	おやべし 小矢部市 さくらまちあざさんでん 桜町字産田 1540-1　ほか	16209 021	36°41′10″	136°52′15″	20051110～ 20060331	27,853	遺跡活用 施設等 建設
はにゅうじょうり 埴生条里遺跡	おやべし 小矢部市 あやこあざいじま 綾子字居島 5051　ほか	16209 185	36°40′03″	136°51′52″	20051201	155,300	土地区画 整理事業
倶利伽羅 天田峠付近 (城跡か?)	おやべし 小矢部市 あんらくじ 安楽寺地内	16209	36°40′21″	136°49′26″	20051201		台風による 倒木撤去

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日の宮・道林寺遺跡	散布地	中世	なし	土師質土器	
石動条里遺跡			なし	なし	
桜町遺跡	集落	奈良・平安・ 中世・近世	柱穴、溝	土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器	
埴生条里遺跡	散布地	古代・中世	なし	土師器、珠洲	
倶利伽羅天田峠付近			堀跡か?		城跡か?

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第58冊

平成17年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発　行　日　　2006年3月31日
編集・発行　　小矢部市教育委員会
　　〒932-8611　小矢部市本町１番１号
　　TEL 0766-67-1760
印　　刷　　株式会社　ア ヤ ト